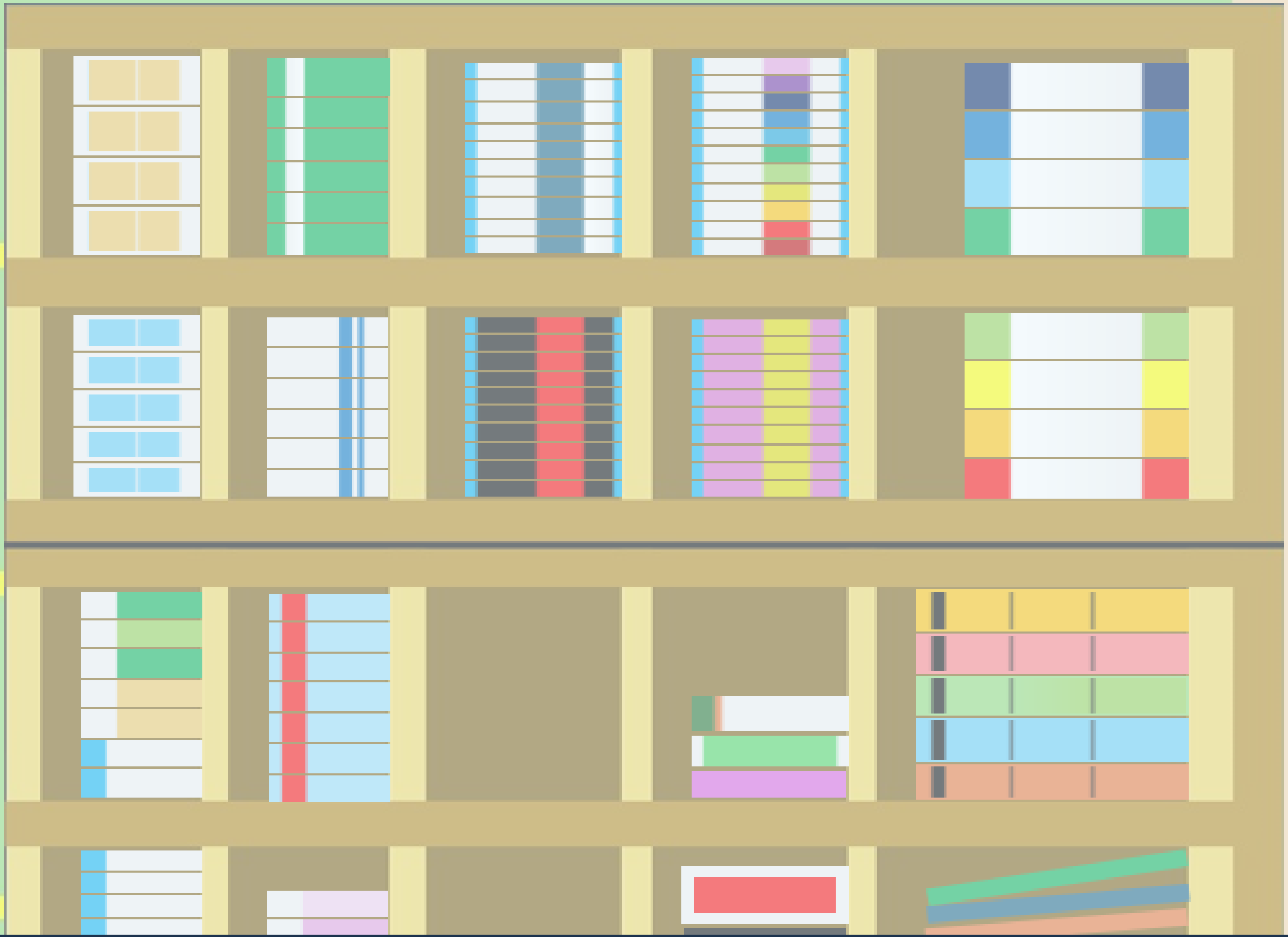
図書館新聞
Library Newspaper No.29



もくじ

先生・司書・学生図書委員会に聞いた！
おすすめ本
…p.3

2025年度 活動記録
…p.16

新企画！！！
図書館アンケート結果発表
…p.20

卒業生からのひと言
…p.21

編集後記
…p.24

先生・司書・学生図書委員会に聞いた！

おすすめ本

あなたの読みたいが見つかるかも

いつもと違うジャンル　読んでみない？

計18冊

文化情報学科

床井 啓太郎 先生
（図書館情報学・書誌学）

『遠い朝の本たち』

著者：須賀敦子
出版社：筑摩書房

須賀敦子『遠い朝の本たち』は、幼い頃に出会った本の記憶を手がかりに、自身の成長と内面の軌跡を静かにたどるエッセイ集です。本を読むという行為が、どれほど深く人生の方向を決め、世界の見え方を変えていくのか。須賀の透きとおるような文章は、その核心をゆっくりと、しかし確かに読者へ届けてくれます。

彼女が示すのは、知識の集積としての読書ではなく、「生き方を選ぶための読書」です。作品中には「建築成った伽藍内の堂守や貸椅子係の職に就こうと考えるような人間は、すでにその瞬間から敗北者であると。それに反して、何人にあれ、その胸中に建造すべき伽藍を抱いている者は、すでに勝利者なのである」という、サン＝テグジュペリによる印象的な一節が登場します。

外から与えられた役割に安住するのではなく、自分自身のなかに「建てるべき伽藍」を持つことができているか。自問し続ける姿は、進む道を探すすべての読者に強く響くはずです。これから自身の人生を歩もうとする若い皆さんにぜひ手に取ってもらいたい一冊です。

地域文化学科

木内 公一郎 先生
（図書館情報学）

『アメリカの〈周縁〉をあるく：
旅する人類学』

著者：中村寛、松尾眞
出版社：平凡社

この本は地域文化、国際文化に興味を持っている学生さんに読んでほしいです。自分の祖母がサンフランシスコ出身ということもあり、小学生の頃からアメリカには強い憧れがありましたし、今もアメリカの学校図書館研究をしています。

この本はフィールドワークのスタイルを取り入れたアメリカ旅日記です。

しかしこの本で紹介されているのはニューヨークのような大都市ではなく、ニューメキシコ州、ミネソタ州、アラスカ州、ノースダコタ州など日本人にはあまり馴染みがない「周縁」です。

著者が「周縁」に着目する理由は、その国の社会構造（歪み、亀裂、綻びも含めて）がわかりやすく現象するからだといいます。実際、この本に出てくる人々は抑圧されている先住民や黒人、あまり豊かそうに見えない白人たちであり、複雑な社会の有り様が描かれています。

印象に残った章を紹介しましょう。6章の「かいぶつたちのいるところ」です。著者はトランプ大統領の支持者が多い州を旅しています。白人至上主義者やLGBTQを嫌悪する人たち、まさに「かいぶつたち」が暮らしていると一般的に捉えられています。しかしアジア系である著者と普通に会話をして交流しています。本当の「かいぶつ」もいるかもしれませんが、人々も社会も日本の報道内容と大きく異なっていました。

先入観をもたずに地域を旅して、現地の人と会話をして、ありのままを見ること。そのような行動を通じて、その国の社会構造や有り様を深く考察することの大切さを教えてくれます。

地域文化学科

高橋 純 先生

（対照言語学）

『ニューエクスプレス（プラス）』
シリーズ

出版社：白水社

みなさん、語学は好き？文法アレルギー？でも語学は、異文化への一番の近道。そこで、私は、白水社の「ニューエクスプレス」シリーズをお勧めします。このシリーズには、みなさんに馴染みのない言語もたくさんあり、さまざまな文化に触れられる。

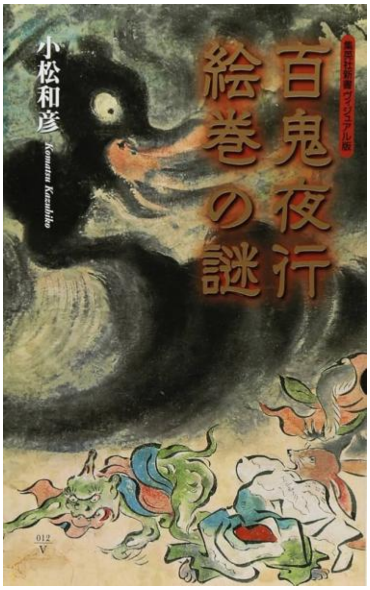
どの言語も20課で構成され、一課ごとに掲載されている会話も興味深い。フィンランド語では、友だち同士の待ち合わせで、実在のデパートの時計前という場面。実際に現地に行ってみると人が待っていたりする。そして、「Se on kaloripommi!（それはカロリー爆弾よ）」などという実用的な例文も。トルコ語では、お店での値切り方。そしてタクシーの運転手がいきなり絨毯を勧めてきたりする。しかし、こんなシチュエーションはあるのか？

料理についての記述もある。スウェーデン語には、「ヤンソの誘惑」という怪しい料理のレシピが載っている。ちなみに、私はこの料理が好きだ。

アムハラ語やジョージア語（私が持っているのはグルジア語）、ビルマ語（ビルマとミャンマーという語の関係も気になるね）などは、文字が楽しい。

上海語、広東語、台湾語、ベトナム語などの数字を聞くと、日本語の漢字の遙かなる旅路を感じる。

日本語の理解のためにも、外国語は必要だよ。



地域文化学科

中野 洋平 先生

（民俗学）

『百鬼夜行絵巻の謎』

著者：小松和彦
出版社：集英社

民俗学者の小松和彦先生（私の指導教員でした）による本書は、数多くの妖怪が練り歩く「百鬼夜行絵巻」の謎に迫る一冊です。

「百鬼夜行絵巻」は、古い道具が化けた付喪神や、動物・植物が人間に化けた妖怪など、個性豊かな存在が描かれた絵巻物で、室町時代から作られたとされ、現在までに60点以上の伝本が確認されています。

既存の伝本は「真珠庵本系統」などに分類されてきましたが、2007年に未知の系統とされる「百鬼ノ図」が発見されます。小松先生は、この新資料を手がかりに、通説だった絵巻の系図（系統樹）を鮮やかに、そして論理的に書き換えていきます。

本書は、親しみやすい「ですます調」で書かれており、豊富なカラー図版で個性的な妖怪たちの姿を楽しむことができます。ひとつの資料と徹底的に向き合い、そこから新しい真実を導き出す、探偵のように謎解きをしていく、読み応えのある一冊です。

司書
北井 由香 さん
（図書館）

『恋とか愛とかやさしさなら』

著者：一橋ミチ　出版社：小学館

物語は、フリーカメラマンの関口新夏（にいか）が、5年間交際してきた恋人の神尾啓久（ひらく）からプロポーズを受けるところから始まります。そんな幸せ絶頂の翌日、啓久が女子高校生を盗撮し、逮捕されるという衝撃的な出来事が起こります。
物語は、2部構成になっており、最初に、新夏の視点で描かれます。彼を「信じたい、許したい」気持ちと「裏切られた、許せない」という相反する感情のあいだで揺れ動き、葛藤する姿が描かれます。後半は、啓久の視点から、なぜ盗撮をしてしまったのか、後悔と自分の犯した罪に向き合う様子、そして、なぜか盗撮した高校生とのその後も描かれていきます。
この作品は「許すこと」がテーマになっています。新夏は、啓久を許したのでしょうか？その結末は、あなたの予想を必ず裏切ります。あなたなら、相手を許すことが出来ますか？

司書
野津 恵 さん
（図書館）

『姑獲鳥の夏』

著者：京極夏彦　出版社：講談社

読み終えた達成感と、結末の鮮やかさに思わず拍手してしまったのは、この本だけです。
物語は、小説家の関口が、友人である古本屋の店主兼憑き物落としの“京極堂”（通称）を訪ね、20ヶ月間身籠ったまま女の話をするところから始まります。さらに、その女の夫は、密室から失踪してしまったらしい…。同じく友人の探偵・榎木津も交えて、事件に深く関わっていくことになります。
起こっていることが現実なのか、それとも誰かが見ている幻なのか、はたまた妖怪の仕業なのか、曖昧で不穏な様子で進んでいくのですが、個性豊かな登場人物達と一緒に、京極堂に憑き物を落とされたかのように感じるクライマックスが圧巻です。文庫版も出ていますが、私はぜひこのノベルズ版をおすすめします。430ページの上下2段組み、表紙も不気味だし、決して読みやすい本ではないですが、思い切って手に取ってみると、ひと味違った新しい読書体験ができると思います。

学生図書委員会
糸賀 りみ さん
（地域文化学科４年）

『正欲』

著者：朝井リョウ　出版社：新潮社

「自分が想像できる『多様性』だけ礼賛して、秩序整えた気になって、そりゃ気持ちいいよなー」ある作中人物の、この言葉を聞いたあなたは、どう思っただろうか。本作は、多様な社会とはどんな社会を指すのか、真っ正面から問いただしてくる。

最近ではSNSを始めとして、芸能人やインフルエンサーが涙ながらに自身の性的指向を公表したり、LGBTQ+の特番が組まれたり。みんなが赤裸々に自分語りをして、「ありのままのあなたが素敵だよ！」と認めなければならない風潮ができあがっている。現代社会のトレンドは、みんなを認めてあげることで誰もが自分らしく生きたいように生きることのようだ。ここで思い出した冒頭の言葉は、現代社会にうっすら気持ち悪さを感じていた私に衝撃を与えた。「認めないこともまた多様性である」と。

本作は、ぜひ「自分の思う多様性」を考えて読んでみてほしい。正解不正解なんてクソみたいなものはないし、それを持ち出してきた奴こそ、多様性の欠片もない人間だ。

学生図書委員会
亀瀧 琉那 さん
（地域文化学科3年）

『謎の香りはパン屋から』

著者：土屋うさぎ　出版社：宝島社

『謎の香りはパン屋から』は、大学生の市倉小春が主人公の軽やかな日常ミステリー小説です。小春は大阪・豊中市のパン屋〈ノスティモ〉でアルバイトをしながら、友人との約束が急にキャンセルされた理由や、日常生活でふと感じる違和感などの「小さな謎」を解決していきます。

焼きたてのパンの香りが漂うお店を舞台に、ちょっとした出来事の裏側にある真相を丁寧に探っていく連作で、比較的読みやすいミステリーとしておすすめします。次の日の朝食べたくなるような焼きたてのパンの描写はパン屋さんの空気や香りまで漂ってきそうなほど美味しそうです。大きな事件や怖い描写はないので、気軽に楽しめる謎多き日常をぜひお楽しみください！

学生図書委員会
今岡 諒太 さん
（地域文化学科3年）

『何者』

著者：朝井リョウ　出版社：新潮社

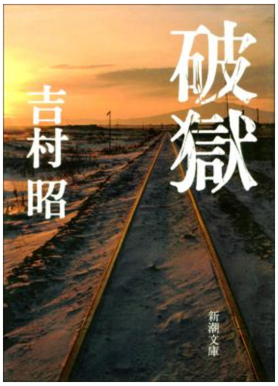
就職活動という人生の一大イベントを舞台に、5人の大学生の葛藤と本音を描いた直木賞受賞作です。
物語は、同じ部屋に集まって一緒に就活を頑張る仲間たちが、表向きは励まし合いながら、裏ではSNSで互いを冷徹に観察・批判するという二重構造で進みます。
著者独自の現実を解剖する鋭利な眼差しで炙り出される登場人物の内面は、特別な悪意ではなく、私たち誰もが持っている「自意識」や「承認欲求」です。「自分は他の奴らとは違う」と思いたい。けれど、社会から見れば自分は一体「何者」なのか。就活を控えた人はもちろん、SNS社会で「自分」の輪郭が曖昧になっているすべての学生におすすめします。就活という限定的なテーマにとどまらず、友人関係、自己表現、そして「他者から見た自分」という普遍的なテーマが突き刺さります。ラスト数ページで世界が反転する衝撃を、ぜひ体験してください！

学生図書委員会
丸山 彩音 さん
（地域文化学科3年）

『ゆうずどの結末』

著者：滝川さり 出版社：角川書店

「この本を読むと呪われる」というのは、ホラー小説ではよくあることでしょう。今回紹介する本に登場する『ゆうずど』もそういう類の本なのですが、この本の恐怖は何度も手元に戻ってくること、そしてどこまでも追いかけてくることにあります。どんな人もこの呪いの前では逃げられない。極限まで追い詰められてしまう。その恐怖は文字を追いかけているだけの読者の心にも迫ってきます。もしも、そんな本を誰かに対する復讐として利用したらどうなるのか。そういう人間の怖さも散りばめられた物語がここにあります。
最初は恐怖を感じなかった場面でも後々背筋にひんやりとしたものが触れて、いつの間にか頭から足の先まで毒のように恐怖が巡る。じわりとせり上がってくるゾクゾクを味わいたい方におすすめしたい一冊です。



学生図書委員会
上村 咲 さん
（地域文化学科2年）

『破獄』

著者：吉村昭　出版社：新潮社

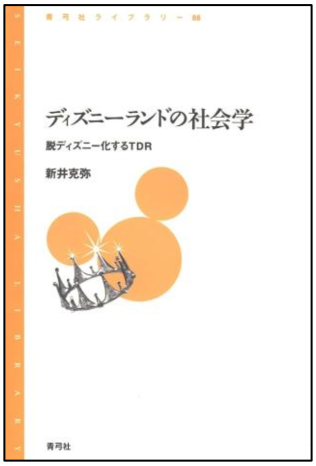
本作は、実際に網走刑務所から脱獄し、「昭和の脱獄王」とも呼ばれた白鳥由栄をモデルに書かれた小説です。この出来事は、犯罪史においても知られており、名前を聞いたことがある人も多いのではないでしょうか。
物語では、大胆な行動力で脱獄を試みる無期刑囚・佐久間と、厳重な監視体制の中で奮闘する刑務官との心理戦が描かれ、収支手に汗を握る展開が続きます。単なる犯罪小説に留まらず、人と人とが向き合うことの難しさや、人との関わり方についても考えさせられる作品です。元になった事件を知っている人も知らない人も、ぜひ手に取って読んでみてほしい一冊となっています！

学生図書委員会
村瀬 愛海 さん
（地域文化学科2年）

『聖なる夜に』

著者：ピーター・コリントン 出版社：BL出版

みなさんが今まで読んできたほとんどすべての本には文字が書いていたのではないでしょうか。しかしこの本に描かれているものは絵だけで、文字は一切書かれていません。この絵本は「文字なし絵本」と呼ばれる作品の一つです。
聖なる夜・クリスマスの準備をするために、おばあさんは残りわずかなお金を持ってたきぎと食料を買いに町へむかいます。しかし、道中でバイクにのったひったくりにお金を奪われてしまいます。ひったくりを追いかけ小さな教会に入ると、まだ赤ちゃんのイエス・キリストやその両親のヨセフ様とマリア様、キリストの誕生を祝いにやって来た三人の学者たちの銅像が荒らされた後でした。おばあさんは銅像をきれいに並べなおし、また雪道を歩き始めます。
絵だけで繰り広げられる世界をじっくり見てみると、今日の私にしか読めない物語が誕生します。たまには文字のない絵本を読んで、ほっと一息ついてみるのも意外と面白いかもしれません。



学生図書委員会
鈴木 亜依 さん
（地域文化学科2年）

『ディズニーランドの社会学
-脱ディズニー化するTDR-』

著者：新井克弥　出版社：青弓社

　この本は、ゼミ訪問の際に先生の研究室で出会った本です。私がディズニー好きなのと、これを紹介すると何だか頭が良さそうに見えるかなと思ったため、おすすめ本に選びました。不純な動機で選んだ本ですが、ちゃんとおすすめポイントもあります。

　まず、本の題名の通り社会学について理解できる（した気分になれる）ことです。しかも、とてもわかりやすく書いてあり、たまにディズニーヲタクをいじってくるのがシュールで面白い。社会学とか堅苦しそうなのに、スラスラ読めちゃう。 深夜3時にこの支離滅裂な文章を書いているような私ですら面白いと思えたので、この点は保証します。

　次に、筆者の主張について、SNSでのヲタクたちの発言を見てみると、証明されている事があります。「この筆者、預言者じゃん！」ってなって、なんかテンション上がります。気分上がるって結構大事じゃんね。最後に、読んでいると頭がよくなった気分になれることです。これも超大事。そのついでに知識の幅が広がるので超お得です。形からだったとしても、それが新しい好きや興味になるかもってやつ。好きなもの・ことは、なんぼあってもええですからね。

　本編では、ヲタクが使う言葉や、社会学の専門用語が度々登場しますが、それらもしっかりと説明してくれます。難しそうな本を読んでみたいけど、何から読もう？て言うか読み切れるかな？と心配な人は、まずはこの本を緩く読んで、気軽に知識の幅を広げてみませんか？この本が、いつかレポートの手助けだってしてくれるかも。

学生図書委員会
澤口 陽奈 さん
（文化情報学科1年）

『氷点（上）（下）』

著者：三浦綾子　出版社：角川書店

『氷点』をおすすめしたい理由は、「愛すること」や「生きること」について考えていく登場人物の心の変化に人間らしさが現れているからである。

物語は、娘を殺された夫婦が犯人の子どもを引き取ることから始まる。復讐心から始まったこの行為が、家族関係を少しずつ不安定にさせていく様子には、登場人物の人間らしさが垣間見えた。

しかし、引き取られた陽子の明るく真っ直ぐな姿勢からは、他の登場人物たちと比べても弱さや嫉妬心が見られず、物語の中でも特に印象に残った。自分の出生の真実に気づいてもなお、周囲の人に前向きに接しようとする姿からは、生きることへの希望と強さを感じた。

陽子は好きな人ができたことをきっかけに、彼女の中にも嫉妬や迷いといった弱い感情を抱くようになる。この変化は、陽子が「愛すること」を実感し、人間らしく成長したことを印象づけている。

このように、登場人物の心の揺れを丁寧に描いている点が、『氷点』をおすすめしたい理由である。

学生図書委員会
小田原 葉奈 さん
（文化情報学科1年）

『ファミリーデイズ』

著者：瀬尾まいこ 出版社：集英社

中学1年生の頃、国語の教科書で『花曇りの向こう』を読んで以来、私の好きな作家は瀬尾さんになりました。デビュー作の『卵の緒』はもちろん、『図書館の神様』、『そして、バトンは渡された』、『夜明けのすべて』、『僕らのごはんは明日で待ってる』等々、あらゆる瀬尾作品を読んできた私ですが、『ファミリーデイズ』は唯一、瀬尾さんのエッセイとして知っている本です。

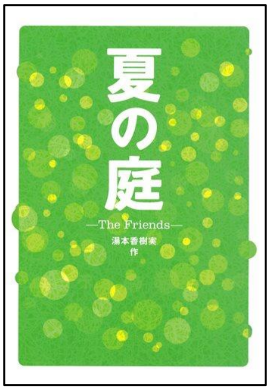
この本には、教師と作家の二足のわらじを続けていた瀬尾さんが、結婚・出産を経て、子育てに奮闘するまでが描かれています。親しみやすくユーモアたっぷりの言い回しや、ほっこりとした読後の余韻など、瀬尾作品の魅力を特に感じられる一冊なので、これを読めば瀬尾さん＆瀬尾作品のファンになること間違いなし！です。

学生図書委員会
有田 果琳 さん
（地域文化学科1年）

『都会のトム＆ソーヤ』シリーズ

著者：はやみねかおる 出版社：講談社

とある夜をきっかけに、自称普通の中学生である内藤内人と、彼のクラスメイトで大企業の御曹司である竜王創也が、二人でゲーム作りを始める話。下水道での冒険、謎の館からの招待、彼らの裏で暗躍している謎の組織……。
（大体創也のせいで）次々とトラブルに巻きこまれていく二人は、果たして最高のゲームを作ることができるのか――！！
笑いあり、ミステリーあり、サバイバルありの都会版ドタバタ冒険譚。個性的な登場人物の数々と彼らのテンポの良い掛け合いが癖になる、全ての人にオススメできるシリーズものの児童文学作品です。一冊一冊がありえないくらい分厚いですが、一度読み始めてしまえばそんなことも気にならないくらい作品に引き込まれます。私の青春における大事な軸の一部分となっている、一番大好きな作品です。気になった方はぜひ。



学生図書委員会
桑谷 さくら さん
（地域文化学科1年）

『夏の庭-The Friends-』

著者：湯本香樹実 出版社：新潮社

ある夏の日、小学生の三人は、親戚の死をきっかけに「死」に興味を持ちはじめ、近所に住んでいた一人暮らしの老人の死ぬところを見てみたいと観察を始めます。そのうちに小学生とおじいさんは交流が始まり言葉を交わしあうようになっていきます。深い交流へと変わり始めた小学生と老人ですが、その矢先には、悲しい現実が待っていました。喪われてしまうものとの出会いが小学生たちの心を変化させていきます。
「死」がテーマのお話ですが、悲しい気持ちだけでなく、なんだかスッキリとしたような気持ちになれるお話です。小学生たちと老人のどちらも心情が描かれていて、過去を背負う老人と将来を背負う小学生たちの交流が互いに良い方向へと変化していくのが、なんとも心が温かくなります。人は誰かに影響して、影響されて、影響しあっているのだと、そして人との出会いが心を豊かにしているのだと気づいて、自分も人との出会いを成長に繋げていきたいと思うきっかけになった一冊です。

学生図書委員会
小林 愛華 さん
（地域文化学科1年）

『君の名前で僕を呼んで』

著者：アンドレ・アシマン
訳：高岡香
出版社：オークラ出版

「あとで！」乱暴で無愛想でそっけなくて冷淡なその響きは、オリヴァーについて真っ先に思い出す言葉だ。十七歳のあの夏、エリオがオリヴァーと過ごした日々は、鮮やかな記憶として今も消えずに残っている。毎年、夏休みになるとエリオの家に滞在する若い研究者のひとりでしかなかった彼の最初の印象は、好きになれるかもしれないし、大嫌いになるかもしれない男だった。しかし、すぐにエリオは彼から目が離せなくなり、話ができれば幸せに、よそよそしい態度をとられれば傷つくようになって――。切なくも甘いひと夏の恋を描いた青春小説。

ページ数は一般的な文庫本よりも長めですが、この厚みがあるからこそ物語の余韻が深く残ります。少し官能的な雰囲気が、夏の爽やかさや静けさと絶妙にマッチして、風情を感じられるのも魅力です。主人公エリオの人間らしい弱さや心情の揺れ動きが丁寧に描かれていて、読者はその変化に自然と引き込まれてしまいます。さらに、この作品は映画化もされており、文字で味わった世界を映像で再び体験できるのも嬉しいポイントです。青春のきらめきと切なさを存分に堪能できる一冊です。

2025年度
図書委員会活動記録

本の貸出福袋

今年度は本の福袋を2回実施しました。1回目は「結末しか分からない福袋」、2回目は「処方本」です。どらちの企画も、どのような紹介文を書けばこの本の魅力が伝わるのか考え、工夫を凝らしました。展示の前で足を止めてもらったり、借りたりする学生の姿を見ると、とてもやりがいを感じました。

（地域文化学科2年　白川）

ビブリオバトルを行うにあたり、司会やタイムキーパーなど係を決め、今年度は6/10（火）、7/8（火）、9/26（金）に予選を行い、そして10/24（金）には予選でチャンプ本に選ばれた発表者によるブロック決戦を開催しました。

全員が責任をもって動いてくれたおかげで無事終えることができました。ありがとうございました。

どの発表者も「この本が好き！」という思いの伝わってくる紹介で、私自身も楽しみながら運営に関わることができました。

（地域文化学科4年　嶋田）

ビブリオバトル

図書館新聞

図書館新聞は、年1回に発行する図書館に関する刊行物です。今年度は例年の内容に加え、みなさんにはアンケート調査にご協力いただきました。ありがとうございました。

リーダーを務めさせていただきましたが、メンバーが優秀で私は特に何もしていません。みんなが頑張った、今回の図書館新聞をどうぞご覧ください！

（地域文化学科4年　糸賀）

10月12日と13日に図書館祭を行い、縁日やワッフルの販売をしました。60人以上の委員が参加し、前日準備や当日の運営を担当しました。大人数での運営だったので大変でしたが、委員みんなが一生懸命働いたので大きなトラブルもなく大盛況で終えることができました。

また、今年は松江キャンパスの学生は図書館祭の参加費が無料にしたので、例年より多くの学生が参加して楽しんでいる姿が見られ、学生の積極的な参加を誘発できて良かったです。

（地域文化学科3年　遠藤）

今年度の図書館祭も昨年度までに引き続き縁日を行いました。受付、古本・しおり販売、スーパーボール&ヨーヨー、わなげ、射的、探検、ワッフル、抽選のブースに分かれて、図書委員会一丸となって運営を頑張りました。

リーダーを務めさせていただいて、いたらないところもたくさんあったと思うのですが、図書委員みんなで協力して準備、実施し、図書館祭を経てさらに図書委員の結束を深めることができたと思います。大学生活で思い出に残る最高の経験になりました！

（地域文化学科3年　矢野）

図書館祭（飛鳥祭）

3キャンパス図書委員交流会

浜田・出雲・松江の3キャンパスの学生図書委員が集まり、松江キャンパスで交流会を行いました。

ビブリオバトルやくるみ製本で本を作ったりなどの様々な活動を通して、普段は関わることの少ない他キャンパスの学生との交流を深めることができました。また特別ゲストとして、松江キャンパス図書館のグッズや出雲キャンパス図書館キャラクターのづもさんをデザインされたデザイナーの渡辺ゆきのさんにもお越しいただき、皆で有意義な時間を過ごすことができました。

（地域文化学科1年　小林）

7月と12月に松江商業高校の図書委員の生徒さんと交流会を実施しました。

7月は松江キャンパスで、大学生と高校生混合のグループ対抗で「たほいや」というゲームをしたり、図書館とおはなしレストランの見学をしたりして交流を深めました。高校生に大学図書館の魅力を感じてもらうことができ、とてもやりがいを感じました。

12月は商業高校で、高校生の皆さんが考案した本に関するゲームで大盛り上がりでした。さらに、たくさんのシールやテープなどを使って、自分だけのオリジナルブックトラッカーを作りました。

どちらも充実した交流会になったと思います。

（地域文化学科2年　村瀬）

松江商業高校交流会

図書館展示特集

4･5月
読書バリアフリー法と
バリアフリー図書

6･7月
トリックアートを
楽しもう！

8～10月
筋トレと美容

11･12月
布を飾る

1月
開運

LIBRARY NEWS SPECIAL

図書館アンケート結果発表！

1月に図書館で実施したアンケートの集計結果をまとめました
たくさんのご意見、ありがとうございました

面白かった企画ベスト5

1	図書館スタンプカード	138票
2	図書館祭	91票
3	LINE来館ポイント	85票
4	小説書き出しコンテスト	61票
5	推し本＆本の福袋	56票

★スタンプやポイントなど、通うのが楽しくなる企画が圧倒的人気！
★「書き出しコンテスト」は「とんちが効いていて面白い」との声も。

次はこれが見たい！展示リクエスト

#トリックアート　#一人暮らしの料理　#先生の推し本　#映画・ドラマ原作　#占い・パワースポット　#ハンドメイド・編み物

注目のアイデア

「小説の中に出てきた食べ物」の再現やレプリカ展示

「どんでん返し本」など、ジャンルを絞った特集

「先輩が使ったレポートの参考文献」講義に関する特集

「謎解き」企画の再来を望む声が多数！

みんなの「図書館ここが好き！」＆メッセージ

「あたたかくて勉強しやすい。課題をするにも最高の空間でした！」

「図書館祭でいろんなイベントがあったのが面白かった。ワッフルおいしかった！」

「司書さんが親切に対応してくれて、資料探しがスムーズにできました。ありがとう！」

「インスタの活動報告を見るのが楽しみでした！おしゃれな雰囲気が好きです。」

「あまり来館できなかったけど、次はもっとたくさん本に出会いたいです。」

「静かで落ち着ける。空きコマの最高の居場所です。」

気になること・これからの図書館へ

席の利用について
「テスト期間は席がすぐなくなる」「高校生が多くて座れない時がある」というお声をいただきました。より多くの人が快適に使えるよう、工夫していきます！

施設・運用について
「窓際のライトがもう少し強いと嬉しい」「金曜日が時々休館なのが寂しい」といったご意見も。皆さんの学習環境をより良くするため、一つずつ見直していきます。

発行：学生図書委員会 / 図書館新聞係
★これからも図書館をたくさん利用してください！★

卒業生からの一言

今年度で卒業される学生図書委員の先輩から、アツいメッセージを寄稿していただきました。大学4年間・短大2年間、ありがとうございました！

保育教育学科　加武美咲さん

学生図書委員会には、1年生から4年間所属させていただきました。
この学年の保育教育学科は私1人で、最初は不安でしたが、他学科や他学年の学生に温かく迎えてもらえて嬉しかったです。新入生歓迎会や、商業高校との交流会では、本に関するゲームを通じて、いつもとは違う角度から本の面白さに気付くことができました。様々な人と交流ができたことも、とても楽しかったです。
大学案内の時に図書館を案内した際、高校生が図書館の広さや活動内容の多さに目を輝かせてくれたことは特に印象に残っています。松江キャンパスの図書館は、人と本を繋ぐ企画で溢れており、私自身、いつも楽しませてもらっていました。そんな素敵な図書館で、学生図書委員として活動できたことに感謝しています。
本当にありがとうございました！

地域文化学科　糸賀りみさん

私が学生図書委員会に所属したのは、大学3年生からです。1、2年生のときは図書館で行われるさまざまな企画に参加する立場でした。外から見て、図書委員会での活動は楽しそうで、実際は想像以上に楽しかったです。
参加してきた活動の中で最も印象に残っているのは、図書館祭・ワッフル係です。まさに目が回るような忙しさを体験しました。私はワッフルの販売をするために委員会に入ったような気がするほど、あの2日間を駆け抜けたと思います。例年、多くのOGの方がお手伝いに来てくださるので、私も来年度はお手伝いに行かねばなるまいと思っております。もちろん、応援に行く予定です。学生図書委員を卒業しますが、これからもここでつながれたご縁を大切にしていきたいです。

地域文化学科　嶋田光紗さん

大学にも図書委員会があると知ったとき、絶対入ろう！と即決した記憶があります。様々な活動に参加して、想像していた以上にたくさんの学びや経験を得ることができました。
図書委員会で活動しなければ、ビブリオバトルに参加したり、イベントを通していろんな人の好きな本などについて知ったりすることもなかったと思います。自分が好きなものを共有することが好きなので、素敵な機会をたくさんもらえたと感じます。また、司書課程を履修する中で資料だけじゃなく、人とのつながりの大切さを実感することができました。
挙げればきりがないのですが、司書さんや委員会のみなさんなど、本当に周りの人に恵まれたと感じます。そんな素敵なつながりをこれからも大事にしたいです。4年間ありがとうございました！！

地域文化学科　新開優唯華さん

図書委員会には、1年生の時に初めて開催された図書館祭の運営のお手伝いをきっかけに入りました。図書委員会＝静か、みたいな印象を持っていた私にとって、いつも活発に皆でワイワイ楽しく活動する皆さんの姿に驚くと同時に、その中に混じって色々な経験をさせていただく時間が楽しくて仕方なかったです。

人見知りで、なかなか自分から人と関われない私が、図書委員会に入ったことで、同級生に始まり司書さんや先輩方、後輩の子たちと、たくさんの人と関わる機会をいただきました。そのおかげで、この4年間は皆さんとの楽しい思い出でいっぱいです。

図書委員として活動を通して、仲良くしてくださった方、お世話になった方、本当にありがとうございました。

また絶対、遊びに来ますね。

地域文化学科　松田杏香さん

「面白そう！」というあほみたいな動機で学生図書委員会に入り、四年間活動をさせていただきました。入った当初は図書館恒例行事の「図書館祭」や「福袋」は（おそらく）なく、四年間でとても活動が賑やかになったなぁと、文章を書きながらしみじみと感じています。

今回、「一言」を書くにあたって、様々なエピソードを思い出しましたが、「楽しい」という感情がもれなくついてきました。こんなに沢山の素敵な体験ができるとは思っておらず、四年間学生図書委員会として活動できてよかったなと心から思います。関わってくださった皆様、最高の思い出を本っ当にありがとうございました！！素敵な思い出をくださった皆様の今後の活動を、心より応援しています！

地域文化学科　津村康太さん

学生図書委員。大学にも図書委員ってあるんだ、と思った。

大学一年生の私は、人と群れることがとにかく苦手で、広いキャンパスの中に自分の居場所を見つけられずにいた。

ある日、恐る恐る図書館のカウンターに立っていた北井さんに声をかけると、快く相談に乗って下さった。

顔合わせに参加した日、新入生のメンバーが思いのほか多いことに少し驚いたが、学生図書委員の活動は、私にとってひとつの“出会いの場”だった。

貸し出し福袋、ビブリオバトル、交流会、図書館新聞……違う学科、違う学年。

同じキャンパスにいても、普段ならすれ違うだけの人たちと、図書館や本を通じて繋がれる時間が刺激的だった。ありがとう。

地域文化学科　渡邉知恵さん

学生図書委員会に入ったきっかけは、生駒さんに誘われて図書館祭のスタッフに参加したことからでした。そこから学生図書委員会へ参加し、様々な活動に参加した記憶があります。

選書では自分の推し作家さんのシリーズを全部入れるという目標をひっそり掲げていたり、友人とおすすめし合いながら選書をしたり、楽しい活動でした。

また、図書館を使ってこういうことがしたい、ということが叶う図書館なので、言ってみたら良いことしかないです。ぜひ色々提案してみてください。司書さんや先生方のビブリオバトルが見てみたいですと書き残しておきます。

長いようで短い4年間でした。ありがとうございました。

文化情報学科　飯塚真子さん

図書委員会は地域文化学科の方が多く、少人数の文化情報学科の私は馴染めるか、楽しめるかとても心配でした。しかし、図書館祭りやクリスマス会などのたくさんのイベントに参加させていただいたことでこれまで全く話したことのない同級生や先輩と顔見知りになることができ、一瞬で心配がなくなりました。

また、選書では私自身が気になった本のpopを書くという貴重な経験をさせていただきました。どのようなpopを作れば多くの人の目を引けるか考えながら作ることはとても楽しかったです。実際に私が入れていただいた本が借りられているとうれしい気持ちになりました。

二年という短い期間でしたが、普通の生活ではなかなかできないようなことができて図書委員会に入ってよかったなと常々思っています。関わってくださった皆様、本当にお世話になりました！！本当にありがとうございました！！！

文化情報学科　木下夢生さん

1年生ながらもビブリオバトルグループのリーダーを務めさせていただき、大変ながらもグループの皆さんのおかげで何とか成功させることができました。

また、全国高校ビブリオバトルの県大会サポーターや、石見銀山にあるサテライトキャンパスでのビブリオバトル等、本当に貴重な経験を積むことができました。

図書館祭や3キャンパス交流会、ビブリオバトルの運営など、楽しく協力しながら何かを成し遂げる経験は、絶対に今後の社会人経験でも活かせると思っています。

2年という短い期間ながらも、多々ご迷惑をおかけしたかもしれませんが本当に楽しい学生図書委員生活をありがとうございました！

図書委員会 図書館新聞

Editor's note

【表紙】有田果琳（地文1年）

私は絵が描けませんので、スライドの図形機能を使って背景と本を別スライドで組み立て、それをそれぞれIMG形式で保存して合体させるといった、はたから見たら非常に面倒そうな手法をとっています。といっても、高校時代から図形機能を使って凝ったスライドを作るのは好きでしたのでとても楽しく制作させていただきました。手書きでない分、歴代の表紙に劣ってしまうかもしれませんが、少しでも気に入っていただけたのでしたら幸いです。

【おすすめ本】鈴木亜依、上村咲（地文2年）

今年もおすすめ本を担当させてもらいました。鈴木です。去年よりかはマシな編集ができたと思います。成長。今年は、司書科目以外の先生方や司書さんにもおすすめ本を教えてもらうこととなり、昨年よりも多くの方に協力依頼メールを送ることになりました。恐怖再びです。（何言ってるかわからない人は、去年の図書館新聞を読んでください。）

しかも今回に至っては、一年春の講義にて、メールの送り方を伝授してくれた高橋先生にも送ることになってしまいました。去年以上に緊張する私。メールの送り方がなってないので、単位剥奪とか言われたらどうしようとか考えました。

しかし、先生もそこまで鬼じゃなかったです。何も言われないどころか、すごくラフな返信が来ました。有難いけど、私の緊張を返してほしい。（鈴木）

【活動記録】村瀬愛海（地文2年）、小田原葉奈（文情1年）

2025年の活動記録のページを担当しました。この1年間で行われた活動を振り返ることで懐かしい気持ちになるとともに、来年の図書委員会での活動がより一層楽しみになりました！図書館新聞を手に取った方が学生図書委員会の活動について知っていただくページになれば幸いです。（村瀬）

【図書館アンケート】今岡諒太、亀瀧琉那、丸山彩音（地文3年）

図書館アンケートを始めてみようと動き出したメンバーの一人の今岡です。この時点ではまだ作業に取り掛かれていないこともあり、何を語ればいいのかはわかりませんが、司書さんや図書館バイトの方々、そして図書委員会が魅力的にしようと日々努力や工夫を重ねている図書館の一助になれたら嬉しいです！（今岡）

図書委員会 図書館新聞

Editor's note

【卒業生からの一言】桑谷さくら、澤口陽菜（地文1年）

「卒業生からの一言」を担当させていただきました。自身が1年生ということもあり、はじめてのことで、先輩方に助けていただきながら作成を進めることができました。これまでの学生図書委員としての活躍を振り返る卒業生の方たちの言葉には、たくさんの思い出が詰まっているなと感じています。現在学生図書委員として活動されている方だけでなく、学生図書委員に興味がある方にも是非読んでいただきたいです。（桑谷）

おすすめしたい一冊を選んだ経験は、自分が今まで読んできた本について改めて考える機会になりました。私は高校生の頃に国語の先生に紹介していただいた小説を選びました。その中で、当時の記憶が少しずつ蘇り、本との出会いは私の中に思い出として残っているということに気がつきました。この新聞をきっかけに、みなさんにも新しい本との出会いが訪れると嬉しいです。（澤口）

【編集後記】今岡諒太（地文3年）、小林愛華（地文1年）

自分含め、初めて図書館新聞に携わる人も多い中で、みなさんが試行錯誤しながら作成されたことが編集後記を読むだけでも伝わりました。ぜひそれぞれのページに目を通してみてください！（小林）

【総編集】糸賀りみ（地文4年）

総編集を担当する予定の糸賀です。なぜ「予定」なのかというと、これを書いている時点で、私は仕事をしていないからです！事前打ち合わせで内容や担当決めを行いましたが、自分に担当を振ることを忘れていました…。なんの文句も言わずに役割を果たしてくれるみんなに感謝です。どんな図書館新聞になるのか、楽しみです！

図書委員会 図書館新聞

図書館新聞29号の発行にあたり、
ご協力していただいたたくさんの先生方と
学生の皆さんに、心よりお礼申し上げます。
ありがとうございました。

令和7年度図書館新聞係一同

図書館新聞 ―Library newspaper― 29号

2026年3月10日 発行

編者 学生図書委員図書館新聞係

発行者 松江キャンパス図書館学生図書委員

発行所 島根県立大学松江キャンパス図書館

島根県松江市浜乃木7-24-2